

「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録について

四国遍路は、徳島・高知・愛媛・香川の4県からなる四国一円に広がる弘法大師空海ゆかりの八十八箇所霊場を巡る全長1,400kmに及ぶ壮大な回遊型巡礼であり、その背景には、四国の自然や文化が深く関わっており、古き良き日本の伝統的景観が生き続けています。

聖なる島、四国の自然が生み出した弘法大師信仰に基づく四国遍路は、多様な宗教・思想を受容し発展させるという日本固有の文化を体現し、往古の修行や巡礼形態を現在に伝え、今なお人々を救済し癒し続けている我が国を代表する巡礼であり、人類全体の生きた文化資産として将来の世代へ引き継いでいくべきものとして、世界文化遺産にふさわしいものです。

「『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」は、国から示された課題を解決するために、四国の産官学民が一体となり、平成22年3月16日の設立後、さまざまな取組みを進めてきました。

これらの取組みの結果として、今回、四国4県と関係58市町村による新たな提案書が作成されたところです。

しかしながら、国においては、「世界遺産暫定一覧表」の追加記載に向けた調査・審議が、平成20年以降行われていません。

以上のことから、国におかれましては、以下の事項について、格別の措置を講じられるよう、四国内外の207,082名の署名を添えて、強く要請するものです。

記

○「四国八十八箇所霊場と遍路道」の暫定一覧表への追加記載

多様な宗教・思想を受容し発展させるという日本固有の文化を体現し、往古の修行や巡礼形態を現在に伝え、今なお人々を救済し癒し続けている「四国八十八箇所霊場と遍路道」について、世界遺産候補として暫定一覧表への追加記載を行うこと。

平成28年8月8日

「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会
会長 千葉 昭（四国経済連合会会長）